

第2回 ECT 検討会 議事録

1. 開催日時：平成16年3月17日（水）10：00～12：00
2. 開催場所：日本航空会館 地下1階 102会議室
3. 参加者（順不同、敬称略）
 - 委員：松永（関西電力）、原田（原子力エンジニアリング）（計2名）
 - 委員代理者：金田（青柳：北海道電力）、浅田（斉藤：三菱重工）、宮崎（小谷地：発電設備技術検査協会）、秋山（伊達：四国電力）、風呂ノ上（川江：九州電力）（計5名）
 - 常時参加者：瀬良（関西電力）
 - オブザーバ：泉田（原子力エンジニアリング）、宮澤（産報出版）（計2名）
 - 事務局：福原、上山（日本電気協会）
4. 配付資料
 - 資料 No.2-1 第1回 ECT 検討会議事録案
 - 資料 No.2-2 軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針（JEAG4208）現行/改定案の比較表
 - 資料 No.2-3 軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針（JEAG4208）改定作業について（中間報告）
 - 資料 No.2-4 原子力規格委員会 構造分科会 ECT 検討会名簿

参考資料-1 原子力規格委員会 規格策定基本方針
5. 議事
 - （1）資料 No.2-1 に基づき、事務局より前回議事録（案）の紹介があり、一部の誤記修正の他は、コメントなく了承された。
 - （2）常時参加者の承認
 - 資料 No.2-4 に基づき、事務局より常時参加者希望の紹介があり、全員賛成で承認された。
 - 常時参加者：泉田 博幸（原子力エンジニアリング）
 - （3）JEAG4208 指針改定案の検討
 - 資料 No.2-2 に基づき、松永主査および瀬良常時参加者より JEAG4208「軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針」の新旧比較内容が説明された。改定案に関する主な意見は、以下のとおり。

改定案 2.4 解析装置(3).b 項

「信号の振幅は、0.1 ボルトの単位で測定できること。」を a 項と同じく

「信号の振幅は、少なくとも 0.1 ボルトの単位で測定できること。」と適切な表現に改める。

改定案 解説 3-6 記録媒体

名称と略語の記載に整合がとれていないため、次のように統一する。

- ・デジタル・オーディオ・テープ (DAT)
- ・光磁気ディスク (MO)
- ・ハードディスク (HDD)

改定案 3.1 試験要領の一般事項(7)信号の伝送

説明文(規格本文)が要求事項となるような表現に改める。

改定案 3.3 試験員及び評価員(1)～(4)

- ・認定要領 資格認定要領と改め統一する。

改定案 全般

- ・誤字、脱字の修正。

(4) JEAG4208 構造分科会への中間報告内容について

資料 No.2-3 に基づき、松永主査および瀬良常時参加者より JEAG4208「軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針」の改定作業について、次回構造分科会への中間報告として 目的 主な改定項目 スケジュール等が紹介された。

なお、H.16 年度中の改定を目途としたスケジュール案は、上部委員会(分科会・規格委員会)の審議状況を踏まえて変更する。

6. その他

(1) 3月25日開催の構造分科会への中間報告準備として、改定案の修正を行い、検討会委員及び事務局へ資料を送付する。(期限:3月23日)

(2) 次回の検討会は、構造分科会の中間報告等を踏まえて開催する予定。

以上